

平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	文章表現基礎講座(Basic Course of Sentence Expression)		授業コード	A030864
担当教員名	伊藤 研、森迫 誠		科目ナンバリングコード	
配当学年	1	開講期	後期	
必修・選択区分	必修	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	「基礎学力講座1・2(国語)」を履修していることが望ましい。(教科書は同じ。)			
受講心得	教科書は必ず持参してください。ノートを用意し、国語辞典(電子辞書も可)を常に携帯するのがよしい。予習や復習のために図書館や人間力育成センターの図書を積極的に利用しましょう。欠席や遅刻のないように、また、授業時間以外にも新聞・雑誌・本をよく読むように心がけること。			
教科書	丸山顯徳(あきのり)『キャリアアップ国語表現法 11訂版』(嵯峨野書院)			
参考文献及び指定図書	『三省堂国語辞典 第六版』(比較的小型)、江守賢治『漢字筆順ハンドブック 第二版』(三省堂)、小学館辞書編集部(編)『日本語便利辞典』(小学館)、金田一春彦(監修)『手紙の書き方辞典』(学習研究社)、『国語力アップ400問』(NHK出版[生活人新書067])、『国語力もっとアップ400問』(NHK出版[生活人新書105])、水谷信子『心を伝える日本語講座』(研究社出版)、加納善光『漢字の常識・非常識』(講談社現代新書954)、池上彰『日本語の「大疑問」』(講談社+α 新書6-1 C)、秋月高太郎『ありえない日本語』(ちくま新書524)、金武伸弥『王道日本語ドリル』(集英社新書0428E)、佐竹秀雄『日本語教室Q&A』(角川ソフィア文庫)、鈴木輝一郎『日本語の逆襲』(小学館)、清水義範『日本語がもっと面白くなるパズルの本』(光文社文庫)、樋口裕一『本当に使える!日本語練習ノート』(PHP新書622)、朝日新聞出版(編)『日本語きほん帳』(朝日文庫)。			
関連科目	社会参画入門、社会参画実習1、基礎学力講座1・2(国語)、英語1・2、情報リテラシー1・2			

授業の目的	基礎的な国語力はあらゆる学習分野で求められる重要な要素です。大学初年度における国語教育は4年間の勉学生活の土台を提供するとともに、卒業後の社会人がもつべき一般常識を養う側面をも有します。1年次前期の「基礎学力講座(国語)」では文字表現や文章作成を学びましたが、後期のこの科目ではそれに引き続き、文章実践や口語表現を学んでさらに日本語力に磨きをかけ、それによって特に日常生活におけるコミュニケーション能力の養成を図ります。
授業の概要	第1回の前半はこの科目のオリエンテーション。半年間の授業で教科書の後半を取り扱います。(前半は前期の「基礎学力講座1・2(国語)」で取り扱いました。)第1回の後半から第15回まで教科書の「文章実践編」(第15課～第24課)と「口語表現編」(第25課～第29課)とを学んでいきます。毎回、課題の提出があります。 第16回に第1回から第15回までの授業内容についての期末試験を行います。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週: 半年間の学習に関するオリエンテーション。授業の進め方、出欠の取り方、遅刻・早退の取り扱い、試験の行い方、授業中の発表の取り扱い、質問の受け付け、成績評価の方法等について説明します。教科書の第15課:手紙と葉書①。	教科書を用いた予習と復習
第2週: 第16課:手紙と葉書②。	教科書を用いた予習と復習
第3週: 第17課:日誌。	教科書を用いた予習と復習
第4週: 第18課:履歴書。	教科書を用いた予習と復習
第5週:	

第19課: エントリーシート。		教科書を用いた予習と復習
第6週: 第20課: ビジネス文書。		教科書を用いた予習と復習
第7週: 第21課: 案内状。		教科書を用いた予習と復習
第8週: 第22課: レポート・小論文。		教科書を用いた予習と復習
第9週: 第23課: ロジカルシンキング。		教科書を用いた予習と復習
第10週: 第24課: 論説文と批評文。		教科書を用いた予習と復習
第11週: 第25課: 待遇表現①。		教科書を用いた予習と復習
第12週: 第26課: 待遇表現②。		教科書を用いた予習と復習
第13週: 第27課: 来客の対応。		教科書を用いた予習と復習
第14週: 第28課: 電話の対応。		教科書を用いた予習と復習
第15週: 第29課: 慶事のスピーチ。		教科書を用いた予習と復習
第16週: 期末試験 第1回から第15回までの授業の内容に関する試験を行います。		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	
	(2) 複数担当の場合の方式	
	(3) アクティブ・ラーニング	
地域志向科目		
備考	このシラバスは「日本人・一般クラス」用です。「日本人・導入クラス」および「外国人留学生クラス」の授業はこれとは内容が異なります。	

○単位を修得するために達成すべき到達目標

【関心・意欲・態度】	①現代人として日常的な言語的コミュニケーションが十分に行えること。 ②その目的のために日本語の運用能力が身に備わっていること。 ③そのために日本語の基礎的な理解力と文章表現力とを有すること。
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------

【知識・理解】	①現代人として日常的な言語的コミュニケーションが十分に行えること。 ②その目的のために日本語の運用能力が身に備わっていること。 ③そのために日本語の基礎的な理解力と文章表現力を有すること。
【技能・表現・コミュニケーション】	①現代人として日常的な言語的コミュニケーションが十分に行えること。 ②その目的のために日本語の運用能力が身に備わっていること。 ③そのために日本語の基礎的な理解力と文章表現力を有すること。
【思考・判断・創造】	①現代人として日常的な言語的コミュニケーションが十分に行えること。 ②その目的のために日本語の運用能力が身に備わっていること。 ③そのために日本語の基礎的な理解力と文章表現力を有すること。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		5点	40点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	25点	25点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			5点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。				

(「人間力」について)

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	[Sレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他 (無形成果)	